

1. 学校マネジメントの深化

事例①

【観点1】「学校教育目標、重点目標等の設定・共有」

取組実践校: 臼杵市立市浜小学校 (児童数437名 18学級)

※学校運営協議会設置校

「資質・能力の3つの柱を踏まえた教育目標、重点目標等を全教職員で共有する工夫」

- ①データ分析や課題の整理を全員で組織的に行っている。
- ②教職員間のベクトルを目標管理面談等を活用して揃えている。

具体的な取組① マトリックス表で整理・分析する



重点目標	めざす子ども像		
	かしこい子(知)	やさしい子(徳)	たくましい子(体)
知識及び技能の習得	全国・県学力調査で、3年連続平均を上回っている。		
思考力、判断力、表現力等の育成	本校の児童の課題	本校の児童の課題	
学びに向かう力、人間性等の涵養			本校の児童の課題



国や県調査等の客観的なデータを使って児童の実態を明らかにする。

3つの資質・能力で整理し、重点目標等に反映

今後に向けて

- i) 新学習指導要領で求められている知識・技能（特に活用できる概念にしていく）、学びに向かう力（特にメタ認知に関するもの）の現状を分析するためのデータの検討。
- ii) 出された課題を、「重要度」と「難易度」で収束させていく。

具体的な取組②-1

目標管理面談の活用

〇年3回の内、1回目は重点目標ごとのプロジェクトチームメンバーでの集団面談。

【メリット】

3つの重点目標を達成するために、組織（市浜小学校）の一員として、何をしなければならないかを理解させることができる。

具体的な取組②-2

「逆報・連・相」を大切にした密度の濃い共有

1. 校長⇔教頭⇔主幹教諭で相談

- Step 1 校長がやってみせる。
- Step 2 管理職と主幹教諭が語りこむ。
- Step 3 主幹教諭がやってみる。
- Step 4 取組への評価を行う。
- Step 5 主体的にミドルリーダーが、学校評価の4点セットの作成等を行う。

2. 主幹教諭→各主任に相談→プロジェクトチームで検証・協議

各主任は質問されることで現状把握が深まり役割も意識する。職員はプロジェクトチーム会議を通して理解が深まる。

相互の「逆報・連・相」で共有化



その結果、ミドルリーダーが主体的に判断し役割と責任を果たそうとする姿が見られるようになった。